

第 1 回館山市議会定例会会議録  
(第 6 号)



1 昭和61年3月22日(土曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番 神田 守隆  
3 番 山中金治郎  
5 番 横溝 功  
7 番 榎本 春光  
9 番 福原 勤  
11 番 飯田 義男  
13 番 石井 昌治  
15 番 渡辺 昭夫  
17 番 近藤 好雄  
20 番 石井 武敏  
22 番 林 豊  
24 番 流山源次郎  
26 番 石井 正  
28 番 安澤 徳順

2 番 田沢 勝信  
4 番 小宮 利夫  
6 番 生稲 陸  
8 番 日下 君敏  
10 番 川名 正二  
12 番 石井 謀  
14 番 伊藤幸太郎  
16 番 松下 正己  
19 番 黒川 平治  
21 番 吉田勇治郎  
23 番 伊賀 多朗  
25 番 五十嵐 昇  
27 番 安西 益男

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 半澤 良一  
収入役 山田 俊康  
総務部長 川畑喜代志  
経済部長 吉岡 政雄  
教育委員会 高橋 弘之  
選挙管理委員会 加藤 利  
監査事務局長 橋本 巖利  
農業委員会 池田 六郎  
事務局 長

助 役 小倉 澄男  
市長公室長 斉藤 武男  
民生部長 鈴木 力  
水道課長 石井 敏夫  
教育委員会 福原 修  
教 育 長  
選挙管理委員会 佐藤 輝雄  
事務局書記長  
農業委員会 齋藤 明

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第6号)

昭和61年3月22日午前10時開議

日程第 1

- 議案第 8 号 館山市附属機関設置条例の一部を改正する  
条例の制定について
- 議案第 9 号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用  
弁償に関する条例の一部を改正する条例の  
制定について
- 議案第 10 号 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に  
関する条例の一部を改正する条例の制定に  
ついて
- 議案第 11 号 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関  
する条例の一部を改正する条例の制定につ  
いて
- 議案第 12 号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例  
の制定について
- 議案第 13 号 館山市特別会計条例の一部を改正する条例  
の制定について
- 議案第 14 号 館山市行政財産使用料条例の制定について
- 議案第 15 号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制  
定について
- 議案第 26 号 昭和 60 年度館山市一般会計補正予算（第  
5 号）

日程第 2

- 議案第 16 号 館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例  
の一部を改正する条例の制定について
- 議案第 17 号 館山市社会教育委員に関する条例の一部を  
改正する条例の制定について
- 議案第 18 号 館山市公民館条例の一部を改正する条例の  
制定について
- 議案第 19 号 館山市身体障害者結婚奨励金支給条例の一  
部を改正する条例の制定について
- 議案第 20 号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する  
条例の制定について
- 議案第 21 号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の

		制定について
	議案第 27 号	昭和 60 年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第 3 号）
	議案第 28 号	昭和 60 年度館山市老人保健特別会計補正予算（第 2 号）
	議案第 29 号	昭和 60 年度館山市と畜場特別会計補正予算（第 2 号）
	議案第 30 号	昭和 60 年度館山市学童災害共済事業特別会計補正予算（第 1 号）
日程第 3	議案第 22 号	館山市農漁業後継者結婚奨励金支給条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第 23 号	館山市西長田農道、佐野農道及び神余頭首工災害復旧事業分担金徴収条例の制定について
	議案第 24 号	館山市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例の制定について
	議案第 25 号	市道路線の認定及び廃止について
	議案第 31 号	昭和 60 年度館山市水道事業特別会計補正予算（第 2 号）
日程第 4	議案第 1 号	昭和 61 年度館山市一般会計予算
	議案第 2 号	昭和 61 年度館山市国民健康保険特別会計予算
	議案第 3 号	昭和 61 年度館山市老人保健特別会計予算
	議案第 4 号	昭和 61 年度館山市ユースホステル特別会計予算
	議案第 5 号	昭和 61 年度館山市学童災害共済事業特別会計予算
	議案第 6 号	昭和 61 年度館山市水道事業特別会計予算
	議案第 7 号	昭和 61 年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

日程第 5 議案第 32 号 館山市助役の選任について

日程第 6 議案第 33 号 館山市固定資産評価審査委員会委員の選任  
について

開 議 午前 10 時 24 分

○議長（流山源次郎君） 本日の出席議員数 27 名、これより第 1 回市  
議会定例会第 6 日目の会議を開きます。

#### 議案の配付

○議長（流山源次郎君） 議案を配付いたします。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

#### 議案の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第 1、議案第 8 号乃至議案第 15 号及び  
議案第 26 号の各議案を一括して議題といたします。

#### 総務委員会委員長報告

○議長（流山源次郎君） ただいま議題となりました各議案は、ともに  
3 月 10 日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並び  
に結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長山中金治郎君。御登壇願います。

（総務委員会委員長山中金治郎君登壇）

○総務委員会委員長（山中金治郎君） ただいま議題となりました議案  
第 8 号乃至第 15 号及び第 26 号に係る総務委員会におきます審査の経  
過及び結果について御報告申し上げます。

去る 10 日の本会議におきまして付託を受けました各議案審査のため、  
13 日午前 10 時より総務委員会を招集し、付託の趣旨を体しまして慎重  
な審査をいたしました。

もとより、各議案につきましてはすでに本会議におきまして一般質問、

議案関連質疑等を通じ、極めて活発な論議が展開されましたが、本委員会といたしましてはこのような背景のもとで執行部の出席を求め、説明を聴取しつつ審査を進めました。

以下、委員会におきます質疑応答を整理いたし、その概要を御報告申し上げます。

まず、議案第8号館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定については、中小企業融資運営委員会の定数減と千葉県信用保証協会長を委員より外すことは的確な融資を行う趣旨から問題はないかとの質疑に対し、執行部より信用保証機関としての責任分担の明確化ということから従前から委員辞退の申し出もあり、かつ保証協会とは事前に打ち合わせ、合意に達したものの分を委員会に付議するので、実務上は問題は生じない旨の回答がなされました。

議案第9号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定については、単に率のみでなく定額の改正は考えられないかとの質疑に対し、執行部より定額による引き上げは改定率にばらつきが生じること、最近は定率での改定を行ってきた旨の回答がなされました。

議案第10号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定については、三役の給料の差がもっとあってよいではないかとの質疑に対し、過去の改正状況から一挙に直すことはできないので、今後の課題としたい旨の回答がなされました。

議案第12号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定については、第1点として窓口業務手当の廃止に関し、その理由、職員の勤務の現況と本条例施行規則による休息、休憩時間規定より多くの問題があるのではないかとの質疑に対し、執行部より、制度発足時と状況の変化、県地方課による行財政診断における特殊勤務手当の性格からの外れ、施行規則の特例規定及び職員組合の了承等より廃止することに決した旨の回答がありました。

第2点として、自動車運転業務手当改正は行政サービスの低下を招くことの有無、また個人用自動車が公用車の不足をカバーしてはいないかなどの質疑に対し、運転免許所持者の現状等により特殊勤務手当として

の意義の薄れ、さらに臨時に従事した場合の手当支給等から行政サービスの低下は考えられない、また個人車の使用も事故を想定し現有公用車約60台ほどの活用により極力避けたい旨の回答がなされました。

議案第26号昭和60年度館山市一般会計補正予算（第5号）については、第1点として、60年度の決算見込みをただしたのについて、執行部より流動的要素が多いが、推計で歳入については、市税が現計予算に対し2460万円程度の増、地方譲与税620万程度の減、娯楽施設利用税交付金で550万程度の減、自動車取得税交付金で440万程度の増、諸収入で2480万程度の増、地方交付税は3月補正後の見込み額として5000万程度の増、使用料、国、県支出金、財産収入については3月補正の額で決算見込みとし、歳出については9000万程度の不用額とし、剰余金は1億8000万程度を見込んでいる旨の回答がなされました。

第2点として、繰越明許費補正と工事負担金についての質疑に対し、工法についての打ち合わせに手間どり着工が遅れたが、事業費1億7000万が60年度の分67%、61年度分33%となり、その負担分を61年度に繰り越して使用する旨の説明がありました。

第3点として、社会福祉振興基金助成金についての質疑に対し、執行部より現在福祉協議会において基金を募っているが、市の助成は年間の寄附金と同額ということであり、市の取り扱い分130万円、福祉協議会の扱い分443万円に相当する額である旨の回答がなされました。

第4点として、水道費に関連する質疑として、館野、九重地区における水道問題とその地区の農業自噴井戸の枯渇に関する質疑応答がありました。

第5点として、教育費に関し、市民運動場に体育館建設の考えはないか、また二中内の市民体育館について学校側に支障はないかとの質疑に対しては、体育館建設は財源関係もあり現在では予定はない、共用については主に一般市民の使用は夜間の使用で特別の支障はないが、日曜日についてはクラブ練習と社会体育行事との競合する面もあり多少の影響がある旨の回答がなされました。

議案第11号館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一



部を改正する条例の制定について、議案第 13 号 館山市特別会計条例の一部を改正する条例の制定について、議案第 14 号 館山市行政財産使用料条例の制定について、議案第 15 号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定についての各議案については質疑なく、審議を了といたしました。

以上、本委員会におきます審査の概要を申し上げましたが、本委員会は付託を受けました議案につきまして、議案第 12 号については賛成多数、議案第 8 号乃至 11 号、議案第 13 号乃至 15 号及び議案第 26 号につきましては全員一致でいずれも原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、総務委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。なにとぞ満場の御賛同を賜りますようお願いをいたしまして委員長報告といたします。

○議長（流山源次郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより討論を行います。通告はありませんでした。討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（流山源次郎君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第 8 号 館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について採決いたします。

議案第 8 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、議案第 8 号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 9 号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたし

ます。

議案第 9 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(流山源次郎君) 起立多数であります。よって、議案第 9 号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 10 号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

議案第 10 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(流山源次郎君) 起立多数であります。よって、議案第 10 号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 11 号館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

議案第 11 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(流山源次郎君) 起立多数であります。よって、議案第 11 号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 12 号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

議案第 12 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(流山源次郎君) 起立多数であります。よって、議案第 12 号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 13 号乃至議案第 15 号及び議案第 26 号について一括して採決いたします。

議案第 13 号乃至議案第 15 号及び議案第 26 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(流山源次郎君) 御異議なしと認めます。よって、議案第 13 号乃至議案第 15 号及び議案第 26 号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

#### 議案の上程

○議長(流山源次郎君) 日程第 2、議案第 16 号乃至議案第 21 号並びに議案第 27 号乃至議案第 30 号の各議案を一括して議題といたします。

#### 文教民生委員会委員長報告

○議長(流山源次郎君) ただいま議題となりました各議案は、ともに 3 月 10 日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長松下正己君。御登壇願います。

(文教民生委員会委員長松下正己君登壇)

○文教民生委員会委員長(松下正己君) 去る 10 日開会の本会議におきまして、本文教民生委員会に付託されました一般議案 6 件、特別会計補正予算 4 件について 13 日委員会を招集し、全委員出席のもとに慎重に内容審査を行いました。

以下、委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず、結果について、議案第 18 号館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定について、議案第 19 号館山市身体障害者結婚奨励金支給

条例の一部を改正する条例の制定について、議案第21号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について、議案第28号昭和60年度館山市老人保健特別会計補正予算（第2号）、議案第29号昭和60年度館山市と畜場特別会計補正予算（第2号）、議案第30号昭和60年度館山市学童災害共済事業特別会計補正予算（第1号）の6議案については全員一致をもって、議案第16号館山市幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定について、議案第17号館山市社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第20号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について、議案第27号館山市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）の4議案については賛成多数をもって、それぞれ原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の過程における主なる事項について申し上げます。

議案第16号については、交付税の算定基準の改定に伴いそれに連動させての引き上げとの説明があったが、交付税の算定基準として示されているのは60年度分についてのみと理解している、60年度分では保育料は幾らになっているのか、また61年度は、と説明を求めましたところ、60年度分については4000円で61年度は4400円になると説明がありました。

次に、近隣市町村の状況について伺いましたところ、安房郡内においては60年度保育料は富浦町4000円、富山町1500円、天津小湊町1500円、他は2000円で県内では20市において設置しているが、4500円以上が14市、4000円が4市、2000円が1市であると説明がなされました。

そこで、委員より、安房郡内において館山市の保育料は大変に高いのにさらにその中で値上げするということ、また交付税の算定基準に沿って値上げするというのがこれでは歯止めがなく心配であり、値上げの緊急度ということについて納得できないとの反対意見がありました。

次に、議案第17号について社会教育委員の活動状況、現委員の数、報酬について説明を求めました。会議数は59年度5回、60年度現在までに2回、3月後半に1回を予定しており、現在は15人で日額報酬

は4500円であると説明がありました。

そこで、社会教育活動分野での充実が期される中で、社会教育委員の数が減員されることは住民の意向が十分反映できるかどうか危惧されるがその点についてどのように考えておるかただしましたところ、過去に29人のときもあったがそれは教育委員会からの諮問に応じ社会教育の現状と問題点についての調査、研究、答申に向けての作業を行っていた関係であり、住民のニーズについてはコミュニティセンターの住民利用の中で直接職員が把握し、社教委員会を通じて具体的な施策とするように心がけており実績も上がってきておるとの答弁がありました。

最近、小、中学生、青少年を取り巻く問題については現在の社会風潮がそのバックになっておるとも考えられるので、社会教育委員の自発的な発言、研究活動によってより実のある委員会にするよう要望いたしました。

さらに、実態として15人であるが、現行の30人以内の規定をあえて変えなければならない積極的理由がない、将来の社会教育活動の充実、発展という観点からマイナスであるとの反対の意見もありました。

次に、議案第18号については、委員数を減員する積極的な理由について問いましたところ、千葉市においては公民館37で定数10名、銚子が6公民館で15名で、館山市の場合10の地区公民館にそれぞれ運営審議会があり、また10名の委員については各地区に平均に選任してあり十分な運営ができるということで改正しようとするの説明がありました。

次に、議案第19号については、支給件数について説明を求めました。45年から発足、45年から49年までは支給ゼロ、50年以降現在まで18人に支給していると説明がありました。

次に、議案第20号については、国保運営審議会委員に被用者保険等保険者を代表する者を加えるという改正であるが、委員の選任の過程、方法について説明を求めました。退職者医療制度の創設に伴ってのもので委員の選任については被用者保険等保険者の推薦に基づいて行い、対象となる市町村については退職被保険者及びその扶養者の数がおおむね1500人以上で全被保険者で占める割合が3%以上の市町村という基

準になっており、館山市においては富士電気健保組合富士ディーゼル支部常務理事を推薦する案が現在きておると説明がありました。

そこで、委員から被用者保険等保険者を代表する委員の選任について基本的には県レベルで決められるようであり、そのようなあり方については疑念を感じるので反対との意見がありました。

次に、議案第21号については、行革大綱の中で消防組織の見直しがうたわれておるが、どのような検討がなされておるのか説明を求めましたところ、消防団員の確保が難しい現況の中で、高年齢化等を考えるに統合等を含めて組織の見直しをするものであるが、長い歴史と伝統があり、さらに後援会等の問題もあるので一朝一夕にはいかない、団員はもとより今後地域との話し合いを進めていく中での見直しをしたいとの前向きな答弁がありました。

次に、議案第27号については、療養給付費の伸びについてどのように考えるかと聞きましたところ、60年度現在までの動向から件数についてはそれほど伸びていないが、1件当たり費用額、1人当たりの費用額がふえている、件数が伸びていないことから医療技術や医療器具等の高度化に伴い検査等がふえているのではないかと考えられると説明がありました。

さらに、国保税滞納者の内容について説明を求めましたところ、59年度の分析によると約2000人の国保滞納者のうち1900人程度が30万未満と比較的額の少ない人が多いと説明がありました。

そこで、委員より、退職者医療制度の創設に伴って1億2500万の国保加入者への負担増を強いるものとなっており、国の負担押し付けに抗議するとの反対の意見がありました。

以上、付託されました議案10件につき、本委員会における審査の概要を申し上げましたが、満場の皆さまの御賛同を賜りますようお願い申し上げ、文教民生委員会委員長報告といたします。

◎議長（流山源次郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより討論を行います。通告はありませんでした。討論ありません

か。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

### 採 決

○議長（流山源次郎君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第16号館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

議案第16号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

### （賛成者起立）

○議長（流山源次郎君） 起立多数であります。よって、議案第16号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第17号館山市社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

議案第17号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

### （賛成者起立）

○議長（流山源次郎君） 起立多数であります。よって、議案第17号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第18号館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

議案第18号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

### （賛成者起立）

○議長（流山源次郎君） 起立多数であります。よって、議案第18号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第19号館山市身体障害者結婚奨励金支給条例の一部を改正する条例の制定について採決いたします。

議案第 19 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(流山源次郎君) 御異議なしと認めます。よって、議案第 19 号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 20 号館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

議案第 20 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(流山源次郎君) 起立多数であります。よって、議案第 20 号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 21 号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について採決いたします。

議案第 21 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(流山源次郎君) 御異議なしと認めます。よって、議案第 21 号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 27 号昭和 60 年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第 3 号)を起立により採決いたします。

議案第 27 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(流山源次郎君) 起立多数であります。よって、議案第 27 号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 28 号乃至議案第 30 号の各議案を一括して採決いたします。

議案第 28 号乃至議案第 30 号の各議案に対する委員長の報告は原案



可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(流山源次郎君) 御異議なしと認めます。よって、議案第28号乃至議案第30号の各議案は原案どおり可決されました。

#### 議案の上程

◎議長(流山源次郎君) 日程第3、議案第22号乃至議案第25号及び議案第31号の各議案を一括して議題といたします。

#### 建設経済委員会委員長報告

◎議長(流山源次郎君) ただいま議題となりました各議案は、ともに3月10日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長日下君敏君。御登壇願います。

(建設経済委員会委員長日下君敏君登壇)

◎建設経済委員会委員長(日下君敏君) 今次、定例会において建設経済常任委員会に付託されました案件は、議案第22号乃至第25号及び議案第31号の5案件であります。

以下に各議案についての審議の経過並びに結果の概要について御報告申し上げます。

本委員会は去る14日午前10時から9委員全員が出席し、市庁舎会議室で開催いたしました。

委員会は、まず議案第22号から審議に入りました。

議案第22号は、館山市農漁業後継者結婚奨励金支給条例の一部を改正する条例の制定についてであります。その内容は市内に在住する農業及び漁業に従事する後継者に対し結婚時に支給する奨励金の額を1万円から2万円に改めようとするものであります。

これについて、今回の改正の理由を聞きましたところ、近時の諸物価

の高騰を考慮し、金額の引き上げを図るものであるとの答弁がありました。

同条例改正案は、この後討論なし、採決は全員一致で原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第23号館山市西長田農道、佐野農道及び神余頭首工災害復旧事業分担金徴収条例の制定についての審議に入りました。

この条例は、災害復旧に伴う農道等の工事を行うに際し、地元の負担する分担金を定めようとするものであります。

なお、頭首工とは、河川をせきとめて農業用水を取り入れる設備のこととあります。

審議は、まず条例に盛り込まれた3工事の地元負担金について何ほどかをたどしましたところ、工事費合計は1420万3000円であり、これを国の補助65%、残り35%を市と受益者が半分ずつ、つまり17.5%ずつ負担することになり、結局地元負担金額は合計252万1000円になるとの回答を得ました。

この後、討論、採決に入り、討論はなし、全員賛成で原案どおり可決いたしました。

続いて、議案第24号館山市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例の制定についての質疑を行いました。

この議案は、道路上に設置する電柱についての占用料、公園内で行商する出店に対する使用料及び漁港内に埋設する地下設備についての占用料等に関し、それぞれ現行占使用料金を改定して引き上げを図ろうとするものであります。

まず、初めに本案件の改正する理由及び改正による増収額についてたどしましたところ、館山市では道路、公園、漁港の占使用料について県の改定に準じ1年遅れで市の改定を行ってきており、今回もその手順によるものである、すなわち1、県が60年4月から改正したことに伴い本市においても61年4月から改正を実施しようとするものである、1、改正による増収額は道路関係87万5000円、公園関係1万2000円、漁港関係1120円程度であるとの答弁がありました。

次に、例えば城山公園内で出店をする場合、その地割りはどうしてい

るのかと尋ねましたところ、市は出店のできる場所の範囲を指定し、実際の地割りは業者が独自で行い、市はタッチしていないとのことでありました。

また、市道が拡幅されたため、従前は民有地内にあった電柱が市道敷内に入ってしまった場合、その占用料の問題はどうなるかとの質問に対し、現実的に市道上のものになれば原則として市が占用料を受け入れることになる、ただ民有地側と電柱所有者側に契約等があれば契約期間の終了の後、市で受け入れる等の措置をとっているとのことでありました。

この後、討論、採決に入り、討論なし、全員賛成で原案どおり第24号議案を可決いたしました。

続いて、議案第25号市道路線の認定及び廃止についてを議題といたしました。

当該議案は、このたび本市の道路台帳が完成したことに伴い、従前の市道を全面的に見直し、認定するものは認定する、廃止するものは廃止する作業を一括してまとめあげたものであります。

まず、資料として添付された図面は大変見づらいが、今後もこのような見づらい図面で道路を説明するのかと問いただきましたところ、今回は一括認定、一括廃止ということなのでこのような形の図面となったが、今後は従前のように認定と廃止に分けてわかりやすい図面を添付していきたい旨の答弁がありました。

次に、土地改良事業によって拡幅された道路の市道認定について伺いました。これに対して、市側は、ほ場整備区域内で完成している幹線道路については今回の認定に含ませてあるが、未完成なものについては現時のところ認定していない、しかしこれについては土地改良事務所と協議を行い、協議が整えば早い時点で市道として認定していきたいとのことでありました。

そこで、ほ場整備区域内の幹線道路は生活関連道路としての位置づけが高いので、市道認定について特段の配慮をいたすよう要望して質疑を打ち切りました。

この後、討論、採決に入り、討論なし、全会一致で原案どおり可決すべきものと決しました。

最後に、議案第31号昭和60年度館山市水道事業特別会計補正予算（第2号）に関する審議の概略を御説明いたします。

当該補正予算は、資本的支出2億7844万6000円につき減額補正しようとするものであります。

まず、本年度内に事業が着手できないもののうち、拡張事業実施設計業務委託料2500万円に関し、その減額の理由を問いましたところ、委託料は館野、九重地区の水道拡張事業に伴う委託設計料として計上してあったが、現在までのところ地元住民の同意が得られず、今年度内に事業着手ができなくなったので減額補正する旨の説明がありました。

これに対し、新聞報道によると、市は九重地区についての計画を断念したとあるが真相はどうか、そしてその場合は館野地区についてだけ行うということなのかといただきましたところ、1、拡張計画は断念したということではない、地元の取水に対する了解が得られないため60年度内に事業を実施することができなくなったので減額をするだけである、したがって地元の了解が得られればその時点で補正予算を計上して事業を進めるつもりである、1、地元とは今後とも交渉を継続していく予定である、1、本拡張計画は館野、九重地区を1つにあわせた地域の上水道拡張事業計画であり、一方を置いて他方を進める考えは今のところない、両地区を含めて考えているとの答弁がありました。

また、事業計画地内の農業用井戸のかんがい面積はどのくらいあるのかとの質問に対し、面積については調査をしていないがそう多くないと思う、農業用井戸は地区内に数10本あるが1つの井戸で1反歩乃至2反歩のかんがいをしていると思う旨の回答がありました。

一方、生活用水として使用している自噴井戸について実際に水道事業用井戸を掘った場合、どの程度の影響があると考えているかと聞きましたところ、試験揚水を行ったときに自噴が即停止し、生活用水として支障が出たのは5、6件であり、その他の井戸については水位の低下が見られるものの自家用ポンプで水が上がらなくなってしまった家が出たというようなことは聞いていないとの答弁でありました。

この後、討論、採決に入り、討論はなし、本議案は全員一致で原案ど

おり可決すべきものと決しました。

以上が建設経済委員会に付託されました議案の審議及び経過並びに結果であります。満場の御賛同をお願いいたしまして、建設経済委員長報告といたします。

○議長（流山源次郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより討論を行います。通告はありませんでした。討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

### 採 決

○議長（流山源次郎君） これより採決いたします。

議案第22号乃至議案第25号及び議案第31号の各議案を一括して採決いたします。

議案第22号乃至議案第25号及び議案第31号に対する委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、議案第22号乃至議案第25号及び議案第31号の各議案は原案どおり可決されました。

### 継続審査について

○議長（流山源次郎君） この際、申し上げます。

建設経済委員会において審査中の請願第1号館山棧橋破損箇所の早期復旧に関する請願書について委員長から会議規則第75条の規定により審査終了まで閉会中の継続審査とされたい旨の申し出がありました。

お諮りいたします。請願第1号を委員長からの申し出のとおり審査終了まで閉会中の継続審査といたしますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたし

ました。

### 議案の上程

◎議長（流山源次郎君） 日程第4、議案第1号乃至議案第7号昭和61年度館山市一般会計及び特別会計予算を一括して議題といたします。

### 予算審査特別委員会委員長報告

◎議長（流山源次郎君） ただいま議題となりました各会計予算は、ともに去る3月11日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本予算に対する予算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

予算審査特別委員会委員長吉田勇治郎君。御登壇願います。

（予算審査特別委員会委員長吉田勇治郎君登壇）

◎予算審査特別委員会委員長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました議案第1号乃至議案第7号昭和61年度館山市一般会計予算並びに特別会計予算に係る予算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る11日開会の本会議におきまして設置されました本委員会を17日招集し、各会計における予算につき慎重に審査を行いました。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、その概要を御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出であります。

第2款総務費中、ワープロ、パーソナルコンピューター等の借上料が計上されておりますが、これらの機器については年々開発、進歩し、また、借上料についても変化していると思われるので、契約にあたってはその内容等について十分検討されるよう要望いたしました。

次に、コミュニティ費に関しまして、コミュニティ活動等の際の事故に備えて、市において保険等加入の一本化を図って運営していくべきではないかとの指摘に対しまして、内容の異なった各種の保険があり、市がすべての行事に対応する保険に加入するというのは難しく、それぞれ

行事ごとに、あるいは各団体において加入している状況であるとの説明がありましたが、今後、ますます市民と行政が連携をもってコミュニティ事業を推進させることが望まれるので、事故等あった場合の保険等の対応について十分検討されるよう要望いたしました。

次に、交通安全対策費に関しまして、種々安全対策の現況についての説明を求めました。特に、交通指導員報酬については、市では36名の指導員を委嘱しており、1回4800円、延べ802人分を計上したとの説明がありましたが、交通指導員が高齢化してきている現状から、指導員の確保を含めて恒久的な安全対策を図られるよう要望いたしました。

次に、徴税費中、納税組合奨励金に関しまして、納税組合の現況と納税組合に対する市の考え方をたどしましたところ、61年度予算については185組合を対象としたが、組合数、世帯数ともに減少の傾向にあり、県下の状況をみても組織率の低下が見られる。今後、現在の状況を認識した上で、他市の対応を見ながら方向づけについて検討してまいりたいとの説明がありました。

次に、第3款民生費であります。

老人福祉費中、ねたきり老人等入浴施設使用料が計上されていますが、本施設の利用については対象者15人で月1回乃至2月に1回の利用がされているとの説明がありました。

さらに、15人の利用は少ないが需要が十分満たされているのか、また、家庭での入浴施設についても開発されているものがあると聞くが検討すべきではないかとの指摘に対しまして、民生委員、ホームヘルパー等を通じて需要の把握に努めておること、また、家庭における入浴サービスについては、今後の検討課題としたいとの考えが示されました。

次に、出野尾老人福祉センターの利用については、好評を得ていると思われるが、拡張する考えはないかたどしましたところ、六十年度現在までの利用者1日当たり10.3人であり、50人の定員でまだ相当の余裕があるので、現時点では拡張の考えがないことが示されるとともに、なお、現在隣接地にゲートボール場の設置がされ、61年度において施設周辺にツツジの植栽を行うとの答弁がありました。

次に、船形保育園移転改築工事に伴う設計及び地質調査委託料が計上

されていますが、移転改築の理由、さらに、時代の進展に伴い保育方法に変化があると思うが、それらの対応についても検討されているか説明を求めましたところ、現在の建物は、36年に古材を使用して民有地に建設され、老朽化に伴い移転しようとするもので、施設の内容としては、従前の施設よりスペースを大きくとり、さらに調乳室、沐浴室、調理人用便所、資料室を加え、合計400平米を予定し、62年度に着工したいとの説明がありました。

次に、第4款衛生費であります。

健康まつり委託料が計上されておりますが、これが内容については、健康の保持の増進について各課において実施されてきた諸施策の総合的な催しを関係各課、関係外郭団体とともに体育の日を中心にして行うためのもので、実行委員会を設置し委託するものであるとの説明がありましたが、市民の健康づくり対策については従前から諸施策が実施されてきており、効果を挙げてきているが、さらに、そのPR、趣旨の徹底を図るべく集大成的な事業となるようなものにされたいとの要望がありました。

次に、環境衛生費に関しまして、家庭雑排水処理対策事業につきましては、本会議においても質疑が行われ、その目的、実施方法等明らかにされていますが、本委員会においても質疑がなされ、家庭雑排水浄化に対する市民意識の啓蒙についてさらに努力されるよう重ねて要望いたしました。

次に、安房郡市広域市町村圏事務組合粗大ごみ処理費負担金が計上されていますが、本市が土地を提供していることもあり、負担割合は適正と考えられるかただしましたところ、建設にあたっては、広域圏で設置しなくても館山市独自で実施しなければならない状況の中で、館山市単独では非常に費用がかかること、広域でやることによって施設規模が大きくなること、館山市の利用が一番多いこと、このような観点から土地を無償で貸与しても広域圏の事業とした経緯があるとの説明がありました。

次に、第6款農林水産業費であります。

農業振興費中、レストハウス解体工事請負費が計上されていますが、



これが内容については、皇太子来訪を記念して、観光客の立ち寄り所として布沼に建設されたものであるが、老朽化してきたこと、さらに布沼園芸組合において集会所を利用していることにより撤去するための工事請負費であるとの説明がありました。

次に、ふるさと情報センター設立負担金が本年度計上されており、これが内容については、近年、都市住民の自然指向が高まり、一方、農漁村においては高齢化等の現象から活力がなくなっていることにかんがみ、都市と農村の交流を盛んにして活力ある村づくりを進めようとするもので、情報の収集活動、ニーズの調査、広報事業、相談サービス事業、情報関連事業等を行うために60年4月に財団法人ふるさとセンターが設置され、現在全国1670市町村、県下10市町村の参加があり、本市においても自然休養村事業の関係から加入しようとするものであるとの説明がありました。

次に、水産業費中、漁協合併促進事業補助金が計上されていますが、一市一組合とする漁協合併の考え方をどう受け止めているかただしましたところ、一市一組合については1つの理想的な形であるが、組合によって諸事情があり一気に進めるのは困難であり、現在本市に対して県からの指示はきていない、県としては将来の方向として考えているのではないかとの説明があり、なお現在、相浜と布良の組合の合併を促進しているとの説明がありました。

次に、第7款商工費であります。

大型店進出に関係する予算については、商調協における審査が一応結審されたことにより商調協に対する予算は減額したが、61年度新たに市内の中小商業者が、大型店進出に対して経営の合理化を図るため、また新商業施設に入店するために必要な費用の融資を受けた場合の利子補給を行っていくとの説明がありました。

なお、商調協結審後においても、さらに中小商業者に対して市が積極的な対応を図られるよう要望いたしました。

次に、観光費中に海洋性リゾートタウン基本構想調査委託料が計上されていますが、年々漁業後継者が減少している中で、漁業の将来性までも含めた観光振興を図るための基本構想とするよう要望いたしました。

また、海水汚染等の問題から年々西岬方面への海水浴客が増加している傾向にあることから、平砂浦海岸の海水浴場の設置についても検討すべきではないかとの指摘に対しまして、平砂浦については、過去にコンサルタントからも造浜事業等についてアドバイスを受けたことがあるが、現在、自然景観を保ちながら年間を通しての利用方法を検討しており、海水浴場については考えていないが、内陸の海水浴場については海水の浄化を図るとともに、観光施設等を検討し、充実していきたいとの考えが示されました。

次に、第8款土木費であります。道路整備については、今後の館山市の発展を考える中で、国道、県道等を含めた総合的な検討を加え、その整備、推進方について積極的に対処されるよう要望いたしました。

次に、市営住宅の入居選考について、希望者に対しあらかじめ必要度に応じて、点数等により定められた順位に従い入居させた方が効率的ではないかとの指摘に対しまして、大都市においてはそのように行っているようであるが、本市の場合、現在、3戸程度空くことにより募集をしており、その都度募集を行った方がきめ細かな調査を行えるとの答弁がありました。

第9款消防費であります。行革大綱の中でうたわれた消防団組織の見直しについてどのように取り組まれるかただしましたところ、団員の高齢化、確保の問題や、地区によって組織数にばらつきがあり、縮小ということではなく組織の再編成ということで、現在は特に消防団内部での検討を進めているが、歴史的な伝統のあるものであり、また後援会等の問題があるので時間がかかるのではないかと考えている旨説明がありましたが、早期に取り組まれ、組織の円滑な運営が図られるよう要望いたしました。

次に、第10款教育費であります。旧館山幼稚園の跡地を館山小学校の運動場として利用することはできないかとの指摘に対しまして、面積2665平米をすべて普通財産として移管する予定であり、今後、市で行う公共事業の代替地として使用する方針であるとの考えが示されました。

次に、第12款公債費であります。公債費のピークの時期について

は、金利情勢がどのような方向で推移するか見極めなければならないし、また、今後の大型プロジェクトの実施による起債の繰り入れ時期等によって変化するが、62年乃至63年がピークになるのではないかと説明がありました。

次に、第13款諸支出金であります、財政調整基金の現在高については、現金として7億3000万程度保有しているとの説明がありました。

次に、一般会計歳入であります。

まず、市税につきまして、年度別の歳入における市税の構成比についての説明を求め、さらに構成比の高くなっている理由について説明を求めましたところ、自主財源、依存財源に分けて考えた場合、56年から59年にかけて市債、地方交付税、国庫支出金の割合が非常に高かったが、国庫補助率の引き下げや事業とのからみ等により依存財源が低下したことにより、自主財源の構成の割合を押し上げているという見方もできるとの説明がありました。

次に、市民税について、年度別の市民税の1人当たり、1世帯当たりの負担額について説明を求め、これが増額については、市内の所得の調査、近隣市町村の動向等により給与所得については約4%の上昇を見込み、さらに退職者分3000万円、過年度分1200万円を見込み積算したとの説明がありました。

次に、国民健康保険特別会計予算であります。

61年度保険税の引き上げについては、本会議においてもすでに論議されておるところであります、本委員会においてもさらに詳細に質疑を行いました。

まず、県南各市の60年度、61年度における一般会計繰入金、財政調整基金繰入金、引き上げ率について説明を求めました。

また、財政調整基金については、2億558万2000円程度保有しているとの説明がありました。

次に、市民の重税感是非常に強く、その負担の軽減を図るため一般会計からの繰り入れを行うべきではないかとただしましたところ、まず、特別会計の中の財政運営により解決し、その後一般会計からの繰り出し

を考えるべきだが、流動的な要素もあるので、本算定時に7000万円の基金の取りくずしを含め検討したいとの考えが示されました。

重ねて、引き上げ率を何とか10%台に押さえられないかただしましたところ、期待に沿えるような数字は出せないかもしれないが、趣旨に沿うような方向で検討するとの答弁がありました。

次に、水道事業特別会計予算であります、一般会計からの繰り入れについて説明を求めましたところ、48年水道事業が企業会計になって以来行われておるもので、営業助成分と資本的収入分とに分かれており、そのうち資本的収入の出資金については公営企業の繰り出し基準により過去に水源開発をした経費に対し繰り入れが行われている。営業助成については従前県費補助相当額を繰り入れてきたが、県の基準単価の関係から補助金の交付がなくなり、60年度から繰り入れはされていないとの説明がありました。

以上が質疑応答等の概要でございます。

採決の結果、付託を受けました議案第1号乃至議案第7号昭和61年度館山市一般会計並びに各特別会計予算につきましては、全員一致をもってそれぞれ原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、委員会の審査の概要につきまして御報告申し上げましたが、市当局におかれましては、今後の予算執行、行政の運営にあたっては本委員会の要望、指摘事項等十分に配慮されるよう要望いたしまして、予算審査特別委員会委員長報告といたします。

○議長（流山源次郎君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（流山源次郎君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君） 私は、議案第1号昭和61年度館山市一般会計

予算、議案第2号昭和61年度館山市国民健康保険特別会計予算及び議案第3号昭和61年度館山市老人保健特別会計予算に反対の討論をいたします。

新年度の当初予算は、中曽根自民党の軍拡福祉切り捨て政治の影響を色濃く反映したものとなっています。

例えば、国庫負担率の切り下げによる国の補助金カットは生活保護や保育所など福祉施策を中心に1億6000万円余にも及んでいます。国保会計についても退職者医療制度の創設に伴い国の国庫負担率を引き下げましたが、これによって国保加入者の新たな負担増が1億5000万円にも上っています。軍備拡張のために福祉に対する国の責任を放棄し、地方自治体や国民に負担転嫁する中曽根政治は厳しく批判されなければなりません。特に、今回の措置が自民党五役会議の裁定によって事実上の決着が図られたことは重大であります。

半澤市長は、市長として補助金カットを地方自治体に押し付ける自民党に対してもきっぱりと批判することが求められます。

新年度当初予算で、市民の市税負担は1世帯当たり24万円にもなっています。これは60年度当初予算に比べて14%もの増税になります。14%といえは5年で2倍近くにもなる大增税であります。

幼稚園保育料及び入園料は、59年度で値上げしたばかりにもかかわらず、わずか2年で値上げであります。

大增税、市民負担増の予算といわなければなりません。特に、幼稚園保育料、入園料を率先して値上げする半澤市長の政治姿勢を容認することはできません。

都市計画税は、事実上固定資産税の上乗せ税となっていますが、本来は都市計画に係る諸費用に充当すべき目的税であります。市街地ではない地域に対しては本来課税すべき筋のものではありません。都市計画税の課税のあり方を見直すべきことを強く主張いたします。

国民健康保険税は、すでに負担の限界を超えていることは59年度の国保会計決算で2億1000万円もの収入未済を抱え、1292万円もの不納欠損措置をせざるを得なかったことにもあらわれています。しかし、当初予算で見る限り対前年比24%もの国民健康保険税の大幅値上

げであります。これは絶対に認められません。

財政調整基金からの繰り入れを大幅にふやすことを強く求めます。

また、国に対し、国庫負担率を元に戻すことを主張いたします。

老人保健法の改定を前提といたしました老人保健特別会計予算の当初予算であります。この老人保健法の改定はお年寄りの医療費負担を月400円から1000円に引き上げる等、お年寄りいじめの改定案となっています。こうした法改定を前提とした当初予算に賛成することはできません。

以上の諸点を主張し、反対討論を終わります。

○議長（流山源次郎君） 以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

#### 採 決

○議長（流山源次郎君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第1号昭和61年度館山市一般会計予算を起立により採決いたします。

議案第1号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（流山源次郎君） 起立多数であります。よって、議案第1号昭和61年度館山市一般会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第2号昭和61年度館山市国民健康保険特別会計予算を起立により採決いたします。

議案第2号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（流山源次郎君） 起立多数であります。よって、議案第2号昭

和 6 1 年度館山市国民健康保険特別会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 3 号昭和 6 1 年度館山市老人保健特別会計予算を起立により採決いたします。

議案第 3 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(流山源次郎君) 起立多数であります。よって、議案第 3 号昭和 6 1 年度館山市老人保健特別会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 4 号及び議案第 5 号の各特別会計予算を一括して採決いたします。

議案第 4 号及び議案第 5 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(流山源次郎君) 御異議なしと認めます。よって、議案第 4 号及び議案第 5 号の特別会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 6 号昭和 6 1 年度館山市水道事業特別会計予算を起立により採決いたします。

議案第 6 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(流山源次郎君) 起立多数であります。よって、議案第 6 号昭和 6 1 年度館山市水道事業特別会計予算は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 7 号昭和 6 1 年度館山市国民宿舎事業特別会計予算を採決いたします。

議案第 7 号に対する委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、議案第7号昭和61年度館山市国民宿舎事業特別会計予算は原案どおり可決されました。

#### 議案の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第5、議案第32号館山市助役の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（流山源次郎君） 朗読は終わりました。

#### 議案の内容説明

○議長（流山源次郎君） 議案の説明を願います。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第32号館山市助役の選任について提案理由の説明を申し上げます。

本市助役の小倉澄男君が昭和61年3月31日をもって任期満了となりますが、同君を助役として適任と考えるので再任いたしたく御賛同賜りますようお願い申し上げます。

○議長（流山源次郎君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長（流山源次郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

採 決



○議長（流山源次郎君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

助役選任について同意を求める件は、これに同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（流山源次郎君） 起立多数であります。助役選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

#### 議案の上程

○議長（流山源次郎君） 日程第6、議案第33号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（流山源次郎君） 朗読は終わりました。

#### 議案の内容説明

○議長（流山源次郎君） 議案の説明を願います。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第33号館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について提案理由の説明を申し上げます。

館山市固定資産評価審査委員会委員中、藤田好治君が昭和61年3月31日をもって任期が満了いたしますので、後任といたしまして石井隆三君が適任と考えますので、御賛同賜りますようお願い申し上げます。

○議長（流山源次郎君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長（流山源次郎君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

採 決

◎議長（流山源次郎君） これより採決いたします。

固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（流山源次郎君） 御異議なしと認めます。よって、固定資産評価審査委員会委員選任について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

閉 会 午前 11 時 43 分

◎議長（流山源次郎君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第1回市議会定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第1号乃至議案第33号
- 1 継続審査について（請願第1号）

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長 流 山 源 次 郎

館山市議会副議長 伊 藤 幸 太 郎

館山市議会議員 小 宮 利 夫

館山市議会議員 五 十 嵐 昇

